

大阪城東部地区のまちづくりのコンセプト、 土地利用・基盤整備計画(たたき台)等について

1. 大学立地を想定した場合の大阪城東部地区のまちづくりコンセプト及び戦略(案)

コンセプト

(仮称)大学とともに成長するイノベーション・フィールド・シティ

- ・新大学を先導役にして、観光集客・健康医療・人材育成・居住機能の集積により、多世代・多様な人が集い、交流する国際色あるまち



コンセプトを具体化する戦略・シナリオ等

1. 街にひらかれ、街とともに成長する「次世代型キャンパスシティ」

- ① 街にひらかれたキャンパスシティ (keyword: 市民開放・産学官民連携・国際交流)
 - ・都心立地を活かし、市民開放・産学官民連携・国際交流などの機能を有する新大学を核としたまち (⇒例. 大阪工業大学梅田キャンパス、横浜教育文化センター跡地、中野四季の都市、NYコーネルテック等)
- ② 街とともに成長するキャンパスシティ (keyword: 街の成長牽引・リビングラボ)
 - ・新大学のフロントラインが先導役となり、街の成長を牽引し、随時、街の課題を解決し発展するまち (⇒例. 柏の葉アーバンデザインセンター、ナレッジキャピタル、WISE Living Lab (たまプラーザ駅北側地区) 等)

2. 健康医療・環境等の既存資源を活かした「スマートシティの実証・実装フィールド」

- ① スマートエネルギー、スマートモビリティ等の実証・実装フィールド (keyword: スマートエネルギー・スマートモビリティ)
 - ・豊富な水・緑、供給処理施設を活かしたスマートエネルギーの実証・実装や、基盤整備を伴う大規模開発である点を活かしたスマートモビリティの実証・実装フィールド (⇒例. 柏の葉スマートシティ、NYハドソンヤード開発、品川シーズンテラス 等)
- ② スマートエイジングシティの実証・実装フィールド (keyword: スマートエイジング)
 - ・大学と、健康医療機関、UR、企業等が連携し「健康寿命の延伸」「QOLの向上」「住み続けられる環境形成」に先導的に取り組むまち (⇒例. 柏の葉スマートシティ、UR大規模団地をフィールドとした取り組み (河内長野市南花台団地、高蔵寺NTなど) 等)

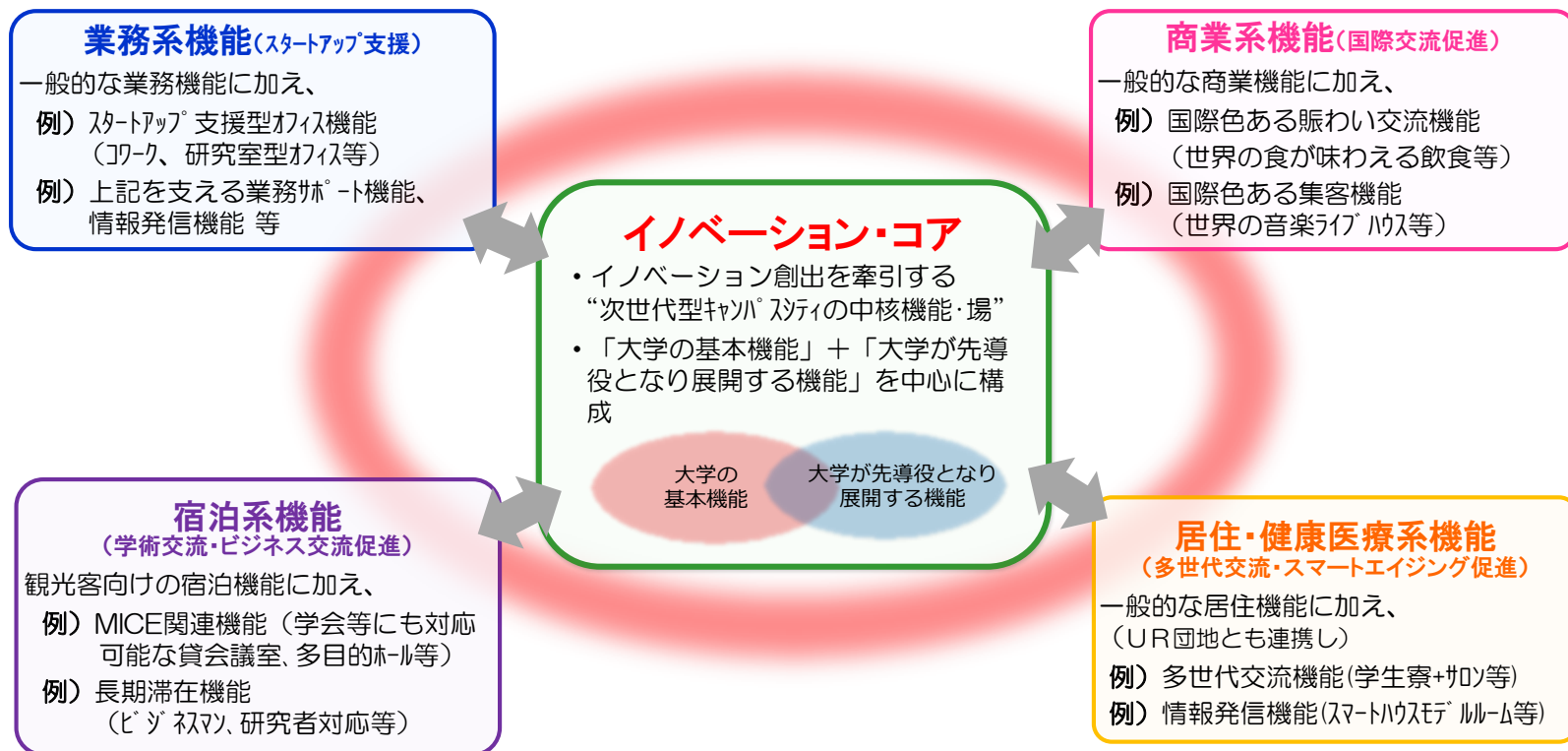
3. 多様なひと、機能、主体が交流する「クロスオーバーシティ」

- ① 多様なひと: 多様な世代、国籍、目的(学生、居住者、ワカ、観光客)の人々が交流するまち (keyword: 学生+居住者+ワカ+観光客)
 - (⇒例. NYハドソンヤード開発 等)
- ② 多様な機能: 職住遊学、多様な機能が重層的に集積し、豊かな水・緑とも調和したまち (keyword: 職住遊学・重層空間)
 - (⇒例. NYハドソンヤード開発(操車場上部利用)、品川シーズンテラス(芝浦水再生センター上部利用) 等)
- ③ 多様な主体: 産学官民、多様な主体が連携し、エリアマネジメントを展開するまち (keyword: エリマネ)
 - (⇒例. 柏の葉アーバンデザインセンター 等)

2. コンセプト及び戦略を受けての展開イメージ(案)

(1) 『次世代型キャンパスシティ』の展開イメージ案 ~「新大学基本構想」「第1回検討会におけるご意見」を踏まえたイメージ案~

- ◆ 次世代型キャンパスシティの中核機能・場を「**イノベーション・コア**」と位置付ける。
- ◆ 「イノベーション・コア」は、「大学の基本機能」+「大学が先導役となり展開する機能」を中心に構成する。
 - ・ 大学が先導役となり展開する機能に関しては、次頁に示す通り、大学の基本機能に加え、「スマートシティ推進機能」「技術イノベーション機能」「文化・芸術、国際交流機能」「都市シビック機能」「大学、研究所のサテライト等機能」などの導入を図る。
 - ・ また、地域研究する大学が先導役となり、市民や学生ユーザーなども巻き込みながら、産学官民連携のもと地域課題を解決するような、幅広いオープンイノベーションの展開を図る。
- ◆ 次世代型キャンパスシティでは、下図のように「イノベーション・コア」を中心に、新たなイノベーションが誘発されるよう多様な機能の集積・連携を図る。



イノベーション・コア

大学の基本機能

◆ 都心キャンパス機能

- ⇒大阪の発展を牽引する「知の拠点」である新大学の存在を存分に活かした新たなコミュニティの形成
- ⇒大学のフロントラインとして、杉本キャンパスや中百舌鳥キャンパスなどと連携したイノベーションの誘発

大学が先導役となり展開する機能

◆ スマートシティ推進機能

⇒データ連携プラットフォーム

- ・府・市民、行政、大学、民間が共創（活動）できるフィールドの実現
- ・アプリの横展開および統合型アプリ開発支援など

⇒データマネジメントセンター

- ・行政などの各種ビッグデータの管理、分析、活用
- ・阿倍野キャンパス（医学）、中百舌鳥キャンパス（工学、情報学他）と連携したデータ利活用のマッチング、コーディネート機能
- ・地区内や周辺の各種データの収集・分析・活用による課題解決やまちづくりの推進/リビングラボの拠点施設

⇒スマートユニバーシティ

- ・セキュア（安全）な状態で学内のデータを収集・分析し、教育支援、大学生生活の質を向上
- ・最新の研究開発技術等の実証支援

◆ 都市シンクタンク機能

（研究・共創を支援するコミュニティの形成）

⇒大阪府・市・大学法人合同プラットフォーム

- ・強力なタッグのもと、府市の喫緊の都市問題に対応
- ・府市や公的研究機関、民間からの外部人材も入れる知・人・財・IT、人事交流

⇒(仮称)大阪森之宮リビングラボ：コワーキングスペース、カンファレンス・スタジオ等

- ・市民等のエンドユーザーも参画した産学官民によるオープンイノベーション
- ・アカデミア×イノベータのコラボレーション

◆ 技術インキュベーション機能（バイオエンジニアリング、医工連携等）

⇒産学共同ラボ+交流センター

- ・理工系のサテライト機能
- ・大学の先端的研究をアピールし共創を誘発
- ・大学（医学、生活科学、リハビリ学、工学他）と企業・ものづくり産業等との共同研究やマッチング機能等

⇒万博後のコンテンツ等の継承発展に資する機能

- ・「スマートリハビリテーション研究センター」によるスマートエイジング・シティなど

◆ 人材育成機能

⇒リカレント教育の場

- ・大阪の発展に貢献する専門職業人、専門的な知識・技能等を有する企業経営者等の養成

◆ 文化・芸術、国際交流機能

⇒アート、リベラルアーツの多目的スペース

- ・文化・芸術、人文科学の知の創出と発信

⇒新しい形のライブラリー

- ・デジタルコンテンツの充実、メーカースペースなど
- ・学生に加え、府・市民、企業にも開放/リビングラボの拠点施設

⇒大学コンソーシアム機能等

- ・研究・共創を支援するコミュニティの形成

◆ 大学、研究所のサテライト等機能

(2) 『スマートシティ』の展開イメージ案

◆ 現状を踏まえて ~将来的な取組みテーマ(例)~

当該地区の立地や特徴的な既存施設などを踏まえると、現在大阪が抱える都市問題のなかでも、以下のようなものが将来的な取組みテーマとして想定。

- ・鉄道車庫施設等の存在 ⇒ 『モビリティ』
- ・下水処理施設等の存在 ⇒ 『環境・エネルギー』
- ・大規模団地+病院立地 ⇒ 『ヘルスケア』
- ・大阪城公園等と隣接 ⇒ 『観光集客』
- ・密集住宅市街地と隣接 ⇒ 『防災・防犯』
- ・・・・ など

◆ 展開イメージ案 ~極力早期に取組みたいテーマ(例)~

上記の中でも極力早期に取組みを検討したいテーマ例としては以下のようなものが考えられる。

- ① 「モビリティ」
 - ・スマートモビリティを活用した主要ターミナル等からの地区内アクセス確保について検討
- ② 「ヘルスケア」
 - ・森之宮地区において推し進められている「スマートエイジング・シティ」の取組みについて、新大学の整備を契機に拡充を検討

(3) 『クロスオーバーシティ』の展開イメージ案

◆ 現状と課題 ~当該地区の「ひと」「機能」「活動」について~

- ひと**：国内外から多くの人々が訪れる大阪城公園に隣接しているが、地区内は、集合住宅居住者やワーカーが中心
- 機能**：鉄道車庫や下水処理場など、現状では高度利用が難しい大規模敷地が立地
- 活動**：近隣には特徴的なエリアが存在しており、隣接するOBP等ではエリアマネジメント活動に積極的に取り組んでいる

◆ 展開イメージ案 ~多様なひと、機能、主体のクロスオーバー促進~

- ① **居住者・ワーカー+大学関係者・観光客等** のクロスオーバー促進
 - ・従来の地域住民・ワーカーだけでなく、大学関係者や観光客など、新たな“ひと”のクロスオーバーを促進
- ② **多機能化+重層化** による機能・空間面でのクロスオーバー促進
 - ⇒前述の通り「イノベーション・コア」を中心に、業務・商業・宿泊・居住などの多様な交流・連携機能がクロスオーバーしながらイノベーション誘発
 - ⇒鉄道施設や下水処理場等の上部利用などにより、重層的な土地利用（空間面でのクロスオーバー）の促進を検討
- ③ **多様なプラットフォーム形成** による主体間のクロスオーバー促進
 - ⇒「イノベーション・コア」を有効に機能させるための、産学官民連携のプラットフォーム（≒都市シカタカ機能【府・市・大学法人合同プラットフォーム、（仮称）大阪森之宮リビング・ラボ】）形成検討
 - ⇒大阪城東部地区の価値向上のため、地権者を中心に、居住者・就業者・学生等も参画するプラットフォーム（≒IRIネットワーク）形成検討
 - ⇒周辺地区（OBP・大阪城公園・京橋周辺等のまちづくりと連携して活動するためのプラットフォーム（≒IRIネットワーク））形成検討

3. 地区内の土地利用・基盤整備計画(たたき台)の提案

コンセプト・戦略及び展開イメージ等をふまえ、土地利用計画のゾーニング及び基盤整備計画については以下のとおり。

(1) 基本的な考え方

・充実した交通インフラや大阪城公園に隣接した立地特性を活かし、土地利用転換・機能更新と併せて基盤施設や水辺空間等の整備を進め、東西軸のヒガシの拠点に相応しい土地の高度利用と良好な市街地環境の形成を図る。

(2) 地区内の土地利用計画(たたき台)

～ゾーニングの考え方(骨子)～

① 『イノベーション・コアゾーン』

従来型の整備方式に加え、民間活力を導入した段階的な整備を想定。

- ・1期としては、土地の高度利用を図りながら、まちに開かれた新大学の都心キャンパス(森之宮キャンパス)を整備する。
- ・1.5期として、民間活力を導入し土地の高度利用を図りながら、大学施設関連機能を中心に、国際色ある業務・商業・宿泊・居住などの多様な交流・連携機能等を確保してイノベーションの誘発を図る。

② 『親水空間+立体活用ゾーン』

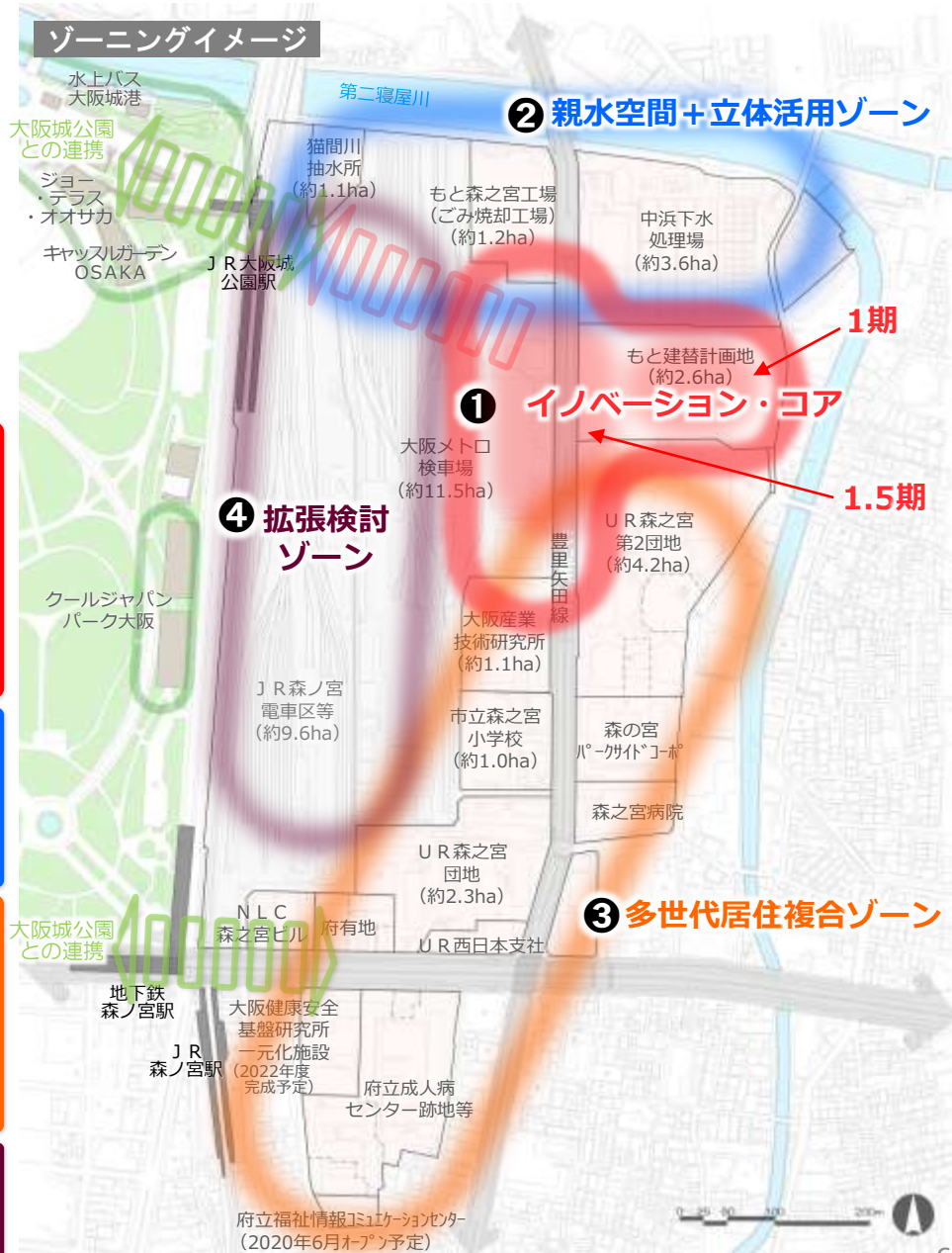
- イノベーション・コアゾーンと連担し、
- ・河川との親水性や大阪城公園との一体性を図る。
 - ・鉄道施設・下水処理場等の上部利用等により、立体的な土地の高度利用を図る。

③ 『多世代居住複合ゾーン』

- イノベーション・コアゾーンと連担し、
- ・複数立地する健康医療機能等と連携し、スマートライフの実現を図りながら、多様な世代が健康で安全に住み続けられる、にぎわいにも寄与する商業・業務なども含めた居住環境の実現を図る。
- (※多様な世代：学生、子育て層、ファミリー層、高齢者 など)

④ 『拡張検討ゾーン』

- ・当面は鉄道車庫として継続利用し、将来的には、社会動向や地区内のまちづくりの動向を踏まえ、上部利用範囲の拡大や土地利用転換等も検討する。



(3) 地区内の基盤整備計画(たたき台) ~各種動線の考え方~

<歩行者動線について>

方針：利便性・快適性・安全性に優れた歩行者重視のまちづくり

① 利便性の向上

- 今後、新大学整備をはじめとした大規模開発に伴い、交流・定住人口の大幅な増加が見込まれるなか、それらの人々の利便性向上のため、現在不足している「**鉄道駅と地区内とを円滑に繋ぐ歩行者動線の確保**」を図る。

② 快適性の向上

- 緑豊かな大阪城公園や、第二寝屋川等の東西河川空間にも接する立地を活かし、「**水・緑の空間を楽しく回遊でき、健康増進にも資する歩行者動線の確保**」を図る。(ウォーカブルシティやアクティブデザインの概念を取り入れる)

③ 安全性の向上

- 歩道が無い、または、狭い区間における歩行者空間の拡充や、東側の密集住宅市街地から広域避難場所である大阪城公園への複数の避難ルートの確保など「**交通・防災の両面で安全性向上にも資する歩行者動線の確保**」を図る。

歩行者動線の整備(例)

① 「鉄道駅と地区内とを円滑に繋ぐ歩行者動線の確保」

- 例) 鉄道施設上部における東西連絡デッキの整備
- 例) 東西動線の整備、東西通り抜け通路の確保 など

② 「水・緑の空間を楽しく回遊でき、健康増進にも資する歩行者動線の確保」

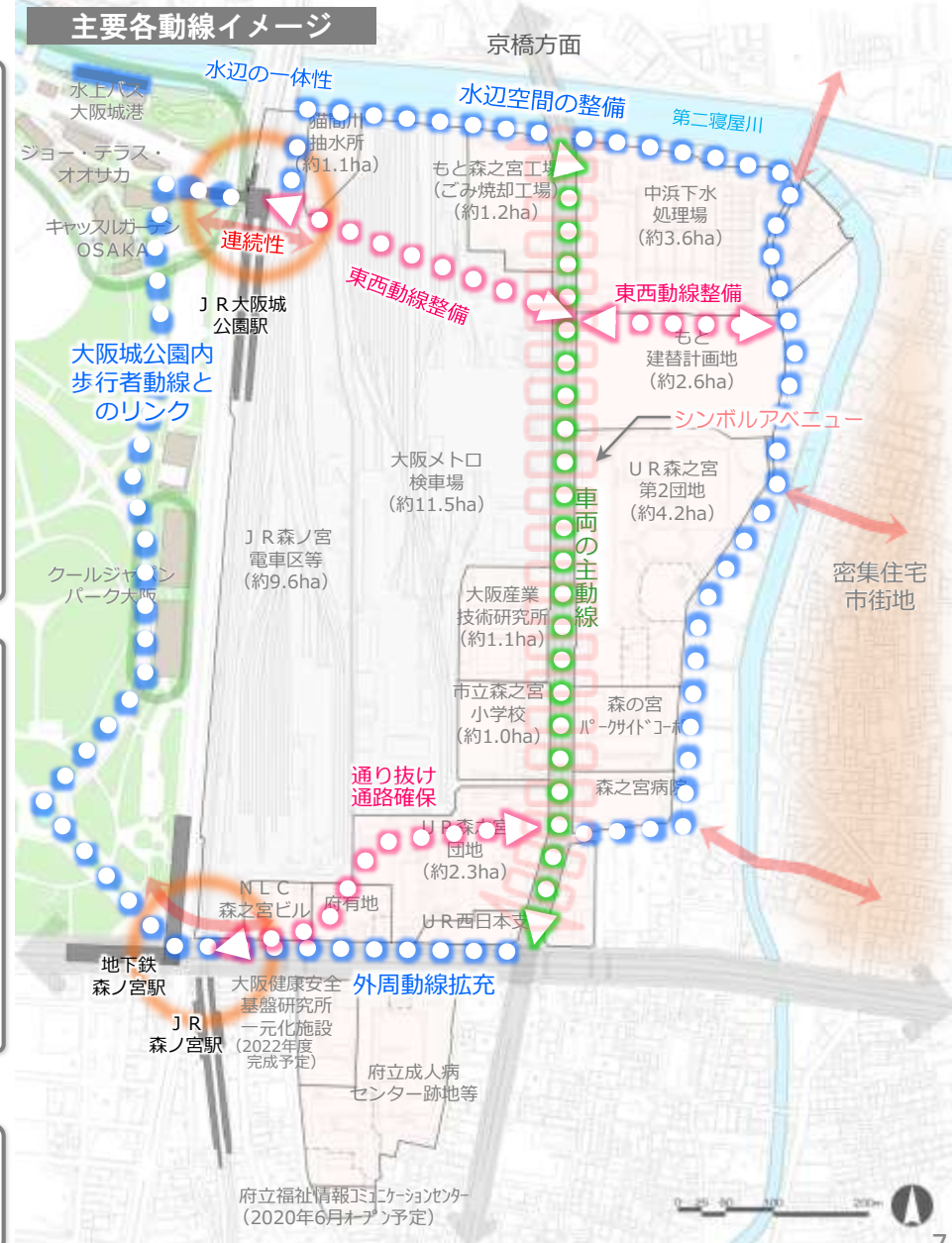
- 例) 河川沿いの水辺空間の整備
- 例) 大阪城公園内の歩行者動線とリンクした外周歩行者空間の拡充 など

③ 「交通・防災の両面で安全性向上に資する歩行者動線の確保」

- 例) 新築、建替えに合わせたセットバック、歩行者空間の拡充
- 例) 東側密集住宅市街地~大阪城公園への複数避難ルートの確保 など

<車両動線について>

- 車両動線は豊里矢田線を基本とし、開発に伴い敷地毎にアクセス動線を確保
- スマートモビリティを活用した主要ターミナル等からの地区内アクセス確保について検討



(3) 想定される開発の進め方(たたき台)

※記載する年次はあくまで想定です。確定したものではありません。

